

「食道・胃ESDの基本手技」 正誤表

「食道・胃ESDの基本手技」(2007年1月30日 第1版第1刷)「Hookナイフによる食道ESD」[p111]の図7写真(右側)、図8ABが差し変わっておりました。

ここに深くお詫びし、以下の写真のように訂正申し上げます。

(2007年2月13日 メジカルビュー社編集部)

図7 arm cut (Submucosal dissection)

arm部を粘膜下層の線維に押し当て、固有筋層と平行な方向にテンションをかけてDrycut 60W effect3 (Forced凝固 60W) で通電し剥離する。

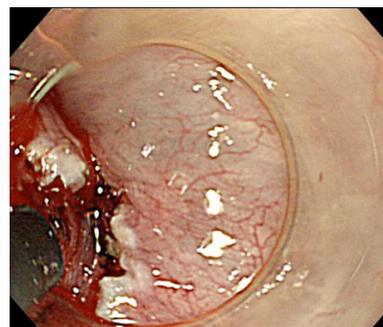
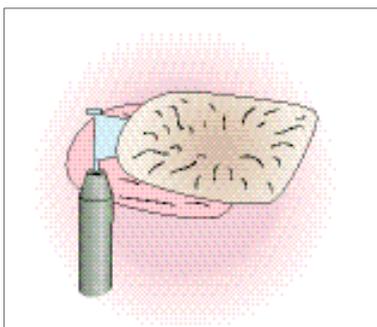


図8 トンネル式剥離

A: 粘膜下層に潜り込むと十分なカウンタートラクションがかかり、剥離が容易になる(写真下が固有筋層)。
B: 肛門側に開通後、病変左右の線維を剥離していく。

